

BUSINESS  
ビジネス

# 意外と知らない 米国裁判

第1回

## 【なぜ裁判制度は 必要なのか】

「マクドナルドのドライブ・スルーでコーヒーをこぼした女性が、マクドナルド相手に訴訟を起こして3億円取れるのだから、アメリカは大変な訴訟社会ですね(※)」

日本人のクライアントや友人からよくこう言われる。日本人ならだれでも、アメリカが訴訟社会であることはよく知っている。しかし、アメリカの訴訟手続きについては意外と知らない。平均的には、「アメリカは陪審制度で、陪審

い、「駐車場で車を止めていたら傷を付けられた」、「パソコンを買ったら壊れていた」、「注文してもいない商品が勝手に送られてきて、代金を請求された」、「商品を売ったのに代金を支払ってくれない」、「従業員を解雇したら、「差別による不当解雇だ」とクレームを付けられた」、「外国企業に特許権を侵害された」、「ちゃんど税金を支払っているはずなのに、IRSから税金の未払いだと追徴課税を受けた」

たそれらがフェアでなければ、争っている当事者たちは納得しないだろう。

例えば極端な話、どちらの言い分を通すかについてお互いが「じゃんけん」をし、その結果を見ていた審判が「あなたの勝ち、お前の負け」と決めることが出来るのであれば、非常に簡単で、そしてあつと言う間に争いは決着しない。しかし負けた方は納得しないだろう。あるいは国に王様がいて、その王様が話をよく聞か

員が判決を下すよね。だってから裁判官の役割って一体何?」といったレベルだ。

今回は、こういった意外と知らないアメリカの裁判制度の仕組みについて、分かりやすく説明していきたいと思う。

■なぜ裁判制度は必要なのか

まず最初に、「なぜ裁判制度があるのか」ということを考えたことはあるだろうか。「隣世の中争いが絶えない」、「隣近所がゴミを出す日を守らな

など、小さきさまざまな争いが至る所で発生している。

しかしこれらのほとんどは、当事者間において解決される。どちらかがしぶしぶ泣き寝入りをすることもあるだろうし、お互いの話し合いで解決されることもあるだろう。しかし数ある争いの中で、当事者同士の話し合いではどうしても解決出来ないものがある。その場合、争いを解決してくれる第三者及び解決する際のルールが必要となってくる。ま

ないまま「お前の勝ち、あなたの負け」と決めたとしたらどうなるだろうか。昔はそういうことが実際にあった。しかし現代の世の中において、この方法ははやや通用しない。故に、だれもが納得出来る公平なルールが必要となってくるわけだ。

2 実体法と手続法

話はややそれるが、民主主義国家において守らなくてはならないルール、つまり法律



大橋 弘昌氏  
大橋&ホーン法律事務所  
パートナー  
慶応義塾大学法学部法律学科卒業。サザンメソジスト大学ロースクール卒業。テキサス州ダラスのヘインズアンドブーン法律事務所勤務を経て、2002年に6人の米国人弁護士と共に法律事務所を設立する。  
電話：646-257-3680  
URL：www.ohashiandhorn.com

は、国民から選ばれた代表、州法であれば州議会議員、連邦法であれば連邦上院及び下院議員が決める。それが国民の作ったルール、法律ということになる。だからこそ、皆が納得して従っているのだ。

これらの法律は、実体法と手続法に分類される。実体法とは「物を買ったらその代金を支払わなければならない」といった類の法律のことだ。一方、手続法とは、「本当に物の売り買いがあったのか」、「本当に代金を支払わなかったのか」ということを確認していくプロセスを定めた法律である。

これらの法律は、共にフェアなものでなくてはならない。例えば、代金の未払いの罪に問われ、実際には「買った物の包みを開けてみたら中身が壊れていた」という事実があったにもかかわらず、その事実が明らかにならないまま一方的に「代金を支払わなかった」ということだけで判断されてしまったら、その判断はアンフェアなものとなってしまふからだ。

このようなことの無きよう当事者双方には、争いを解決してくれる第三者に対して事実、証拠、主張を説明する機会を十分に与えなくてはならない。アメリカにおいて、この争いを解決してくれる第三者が裁判官と陪審だ。

3 裁判官と陪審

裁判官と陪審の役割分担については追って詳しく説明するが、一言で言うならば、当該の争いに適用される法律を決め、その法律の解釈をし、陪審が判断に用いる証拠を選別するのが裁判官で、それらを基に最終的な判断を下すのが陪審である。

例えば、「物を買ったらその代金を支払わなければならない」という法律を示し、更に「物を発注した」、「買った物が壊れていた」、「代金が支払われなかった」という証拠を事

実判断に用いることが可能かどうかを決めるのが裁判官である。それに対し、用いることが可能と認められた証拠が実際の事実か否かを検討し、その事実を法律を当てはめて最終的に、例えば、「買主は代金を支払わなくてもよい」、あるいは「支払わなくてはならない」と判断するのが陪審である。

4 なぜ裁判制度は現行の  
ようになっているのか

このように裁判制度とは、それを通じて事実関係が明らかになり、フェアな結論が出るものでなければいけない。また、裁判が税金を使っても行われる手続きである以上、無制限に延々と、事実解明に時間やお金、労力が費やされるようなものであつてはならない。

現在の裁判制度は、フェアな結論が出るための手続きであるべきという要請と、限られた時間とコストを踏まえた効率的な手続きであるべきという要請を両立させた制度であると言える。

アメリカにおいて裁判を経験したことがある人、あるいはそういう人から話を聞いたことがある人は、現在の裁判制度について、複雑だとか、時間が掛かり過ぎるという疑問を持つかもしれない。しかし、いつの世でもそうなのだが、現在の裁判制度もまた、試行錯誤の上の妥協の産物なのだ。

【文中※】ニューメキシコ州の都市アルバカーキーに住む79歳の女性ステラ・ライベックさんが、孫の運転する車の助手席に同乗している時、マクドナルドのドライブ・スルーでコーヒーを買ったところ、そのコーヒーをひさの上にこぼしてやけどを負ったため、マクドナルドを訴えた事件。しかし、報道や流布している話より実状は種々か、一番における陪審評決は286万ドル(約3億)の支払いだったものの、裁判官がその金額を64万ドルに減額。結局は裁判所外で和解したので正確な金額は不明だが、60万ドル未満だったと言われている。